

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる		
具体的な施策	(2) 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む		
	2 地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進		
事業名	観光客おもてなし環境整備体制強化事業【新規】		
担当課名	観光商工課	所属長名	安 永 佳 秀
関係課名	総務課		
事業の目的	町内の宿泊施設の受入環境の充実による国内外からの交流人口の拡大を図る。また、Wi-Fiフリースポットの整備により、訪日外国人等、観光客の利便性の向上を図る。		
事業の内容	宿泊施設の新築、増改築、改修工事等を実施する者に対し支援を行う。また、港ターミナルや観光案内所などに移動環境に適したWi-Fiを整備する。		
事業の実績・取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設の改修等支援については、年度末に内閣府の補助金申請のみを実施。 33,000千円 ・観光・防災Wi-Fiステーション整備については、関係課と設置スポットを協議の上、総務省の補助金申請のみを実施。 10,080千円 (両事業ともに、予算43,080千円をH28年度に繰り越し事業実施) 		
成果（できたこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・新上五島町宿泊施設受入体制支援事業補助金交付要綱を施行できた。 ・宿泊施設の改修等支援及びWi-Fiフリースポット整備について補助金の交付決定を得られた。 		
課題（できなかったこと）	—		
担当課評価	B	平成27年度は、補助金申請のみ、補助金申請事務は計画どおり完了した。予算を平成28年度に繰り越して事業実施。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	宿泊施設への改修等の支援については、平成27年度の繰越事業として、H28年度に実施予定。また、総務省の補助金を活用し、平成27年度の繰越事業として、H28年度に町内の主な観光施設・防災施設19箇所にWi-Fiフリースポットを整備する予定。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	2	地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進	
事業名	ながさき巡礼受入体制推進事業		
担当課名	観光商工課	所属長名	安永佳秀
関係課名			
事業の目的	今後増加が予想される巡礼客、各メディア、教会に関する問い合わせ対応など「世界遺産登録」に向けた受入体制を構築する。		
事業の内容	有川港ターミナルに長崎巡礼センター新上五島ステーションを設置し、専門知識を有する常勤職員1名を配置。世界遺産登録を見据えた観光客受入体制の充実を図る。		
事業の実績・取組状況	長崎巡礼センター新上五島町ステーション運営補助 1,412千円 新上五島町ステーション運営実績 ・巡礼ガイド実績 903名 ・ガイド手配 78件 ・ミサ手配 34件 ・取材対応 6件		
成果（できたこと）	教会・巡礼という専門的知識を要する事業であり、ミサ手配や巡礼ガイドなど、行政や観光物産協会でも対応が難しい業務を遂行できた。実績数からも十分な成果を得られた。		
課題（できなかったこと）	職員1名体制では、ガイド対応時にステーション事務所での対応が出来ないため、教会・巡礼に関する常設案内所としての機能が十分でないことや、関連資産の素材整理、情報発信等の業務に課題がある。		
担当課評価	B	巡礼客の受け入れ（ガイドやミサ手配等）体制が図られた。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	補助金を交付しているNPO法人長崎巡礼センターが人員・予算ともに体力のある組織を構築すること。平成30年の世界遺産登録を目指している今、巡礼や教会を訪れる観光客と教会、観光関係事業者を繋ぐ役割は欠かすことの出来ない存在であり、行政としても引き続き支援が必要である。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	2	地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進	
事業名	島の宝を活用した魅力情報発信強化事業（観光）		
担当課名	観光商工課	所属長名	安 永 佳 秀
関係課名			
事業の目的	島内に点在する教会群をはじめとする観光スポットなどの島の魅力を多くの方に知っていただき、来島してもらい、情報発信や島内周遊型観光の推進による交流人口の拡大を図る。		
事業の内容	世界遺産登録を見据えて四カ国語に対応した観光ガイドブックや教会拝観ハンドブックなどの情報ツールを製作する。		
事業の実績・取組状況	平成27年度は、財源として予定していた離島活性化交付金（国）が国の方針（予算枠の関係上新規事業の採択はなし）によりを獲得できず、実施することはできなかった。		
成果（できたこと）	—		
課題（できなかったこと）	有利な財源の獲得が出来なかった。		
担当課評価	—	有利な財源の確保ができず、事業の実施ができなかったため、評価できない。世界遺産登録を見据えて、情報ツールの多言語化は必要であり、今後、財源を確保し、実施する。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	観光ガイドブック等の情報ツールの製作については、平成28年度より頭ヶ島受入体制整備事業（離島活性化交付金を活用）で実施予定。		
委員評価	—	次年度以降に評価	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	2	地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進	
事業名	世界遺産登録事業 【主：横断プロジェクト】		
担当課名	文化財課	所属長名	湯川直基
関係課名			
事業の目的	長崎・熊本県及び関係6市2町が共同で「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の2016年の世界文化遺産登録を目指すことで、資産の歴史的文化的な価値を後世へ継承するための万全な保護体制の整備や全世界への情報発信及び交流人口の拡大による地域活性化に繋げる。		
事業の内容	「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」のイコモスによる現地調査対応、「長崎の教会群」の価値を正確に伝え、将来に向けて適切な保存・活用を図るための世界遺産センターサテライトの施設整備及び来訪者の急激な増加に対応するため、便益施設の整備を行うとともに秩序ある教会堂の公開に向け祈りの島保全員を配置する。		
事業の実績・取組状況	平成27年1月に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」がユネスコへ推薦され、イコモスによる現地調査が同年10月に行われ、翌年7月にユネスコ世界遺産委員会で審査される予定であったが、イコモスからの指摘により平成28年2月に国が推薦を取り下げ、再度推薦書の見直しを行うこととなった。また、秩序ある頭ヶ島天主堂の公開を行うため祈りの島保全員を配置し教会堂拝観マナーの徹底に努めた。併せて、来訪者の急激な増加に対応するため便益施設の整備準備（補助申請等）を行った。 事業費 5,532千円		
成果（できたこと）	「長崎の教会群」の価値を正確に伝え、将来に向けて適切な保存・活用を図るため上五島空港ターミナルを活用し世界遺産センターサテライトの施設整備を行った。また、祈りの島保全員を配置することで教会堂の拝観マナーが向上した。併せて便益施設の整備準備（補助申請等）を行った。		
課題（できなかったこと）	イコモスからの指摘により、推薦を取り下げたため平成28年の登録が先送りとなった。		
担当課評価	B	目標どおりに進捗してきたが、イコモスからの指摘を受け、国が推薦を取り下げたことにより再度推薦書の見直しを行うこととなった。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	国及び関係県市町でイコモスからの指摘を分析し、推薦書の見直し及び必要な再調査等を実施し、早期の国内再推薦を目指す。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	2	地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進	
事業名	日本遺産魅力発信推進事業【新規】		
担当課名	文化財課	所属長名	湯川直基
関係課名			
事業の目的	平成27年4月24日に認定された日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島」を活用して、新上五島町の新たな観光資源として魅力情報発信を行っていくとともに、日本遺産の理解を深めてもらうため推進体制の強化を図る。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産関連資産（山王山と遣唐使関連史跡）の研究と報告書作成。 ・日本遺産ルートサインの整備 ・日本遺産に関する情報発信及びツアー開催等による観光客の誘致 		
事業の実績・取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・有識者による「日本遺産」関連史跡の調査報告書「五島海道」の発刊 200冊 ・各史跡ごとに日本遺産ルートサインの設置 6基 ※日本遺産「国境の島」推進協議会で実施（町の支出額はなし） 		
成果（できたこと）	調査報告書「五島海道」の発刊及びルートサインの設置により、日本遺産の周知に繋がった。		
課題（できなかったこと）	世界文化遺産と比べて「日本遺産」の認知度が低い。		
担当課評価	B	事業は予定どおりに実施しているが、情報発信の強化を引き続き実施していく必要がある。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	世界文化遺産と比べて「日本遺産」の認知度が低いため、まずは町民の認知度向上が必要である、そのためにも町民向けの「日本遺産」講演会や歴史散策ツアーを開催して、町民の認知度アップを目指し、そこから観光客の誘致に繋げていく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	2	地域資源等を活用した交流拡大に向けた受入体制の推進	
事業名	祈りの島インフォメーションセンター設置事業		
担当課名	文化財課・観光商工課	所属長名	湯川直基・安永佳秀
関係課名			
事業の目的	平成28年7月の世界遺産登録を見据え、「長崎の教会群」の歴史的文化的な価値を正確に伝え、将来に向けて適切な保存・活用を図るため上五島空港ターミナルを活用し”長崎の教会群”サテライト整備を行う。また、上五島空港駐車場から頭ヶ島天主堂をシャトルバス等で運行する「パーク&ライド方式」の試行、検証により世界遺産登録に向けた受入体制の構築に取り組む。		
事業の内容	上五島空港ターミナルを改修し、”長崎の教会群”サテライトとしての施設整備を行う。また、上五島空港駐車場から頭ヶ島天主堂をシャトルバス等で運行する「パーク&ライド方式」の試行、検証に取り組む。		
事業の実績・取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・”長崎の教会群”サテライト整備 7,453千円 展示室、トイレ、事務室改修、滑走路進入防護フェンス設置 ・パーク&ライドの検証 2,316千円 (7月18日～12月31日警備員を配備、9月19日～9/21シャトルバス運行) 		
成果（できたこと）	平成28年7月の世界遺産登録を見据え、歴史的文化的な価値を正確に伝え、将来に向けて適切な保存・活用を図るための基盤整備ができた。また、頭ヶ島天主堂までの町道が狭隘であることや教会付近の駐車場が不足していること、自動車の騒音や排気ガスといった問題を解決するためには、パーク&ライドが必要ということが検証できた。		
課題（できなかったこと）	平成28年7月の世界遺産登録を見据え”長崎の教会群”サテライトを設置したものの、イコモスの指摘を受け平成28年2月に国が推薦を取り下げたため、登録が先送りとなった。そのため、祈りの島インフォメーションセンターとして重要文化的景観をメインに展示・案内する方向性で進むこととなった。パーク&ライドの周知方法に工夫が必要である。		
担当課評価	B	平成28年7月の世界遺産登録へ向け目標どおりに進捗したが、急遽登録が先送りとなったためサテライトの内容を変更して取り組むこととなった。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	当分の間、祈りの島インフォメーションセンターとして継続し、今後の世界遺産登録に向けた”長崎の教会群”の動向を踏まえ、世界遺産サテライトへ移行していくものとする。また、今後、観光客の増加が予想されるため、パーク&ライドの周知に努め、受入体制システムの構築に向けて取り組んでいくものとする。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。